

NGO・NPOの環境保全活動を支援します。

環境再生保全機構

No. 30

地球環境基金便り

特集 生物多様性



写真提供：(特活)黒潮実感センター

生物多様性

4万種／1年間

開発や乱獲、地球温暖化の進展、里山などの手入れ不足による自然の荒廃、外来種による生態系のかく乱などによって、生物の多様性は、現在、急速に失われつつあります。その速度は過去と桁違いの速さで、1年間に4万種程度が絶滅していると言われていています(※)。

生物多様性は、人間も含めた多くの生物が、バランスを保ちながら関わり合い、様々な環境に合わせて存在していく生命のつながりです。水や酸素や食べ物も、そのつながりがなくては得ることができません。生物多様性の損失は、生態系のバランスだけでなく、人間が自然から受けていた様々な恩恵を失うことにつながります。

命の共生を未来へつなぐために、今、私たちにできることは――。

※平成22年度版環境白書より



Contents

特集 「生物多様性」

巻頭インタビュー……………3

MISIAさん

環境問題も貧困も紛争もない

未来への想いを歌い続けたい

生物多様性条約COP10の成果とこれからの課題……………6

環境省生物多様性地球戦略企画室 鳥居敏男さんインタビュー

「生物多様性交流フェア」での活動から……………8

生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)

ラムサールセンター「KODOMOバイオダイバシティ」

WWF(世界自然保護基金) ジャパン

助成団体レポート……………10

(特活)「環境・持続社会」研究センター(JACSEES)

専門領域をもったNGOとして、社会の穴埋めをしていきたい

感謝状贈呈者の活動「ほし」「そら」「みどり」……………12

会員の皆さまと一緒に、青く美しい地球のためにできること

(株)東急スポーツオアシス「オアシスブループロジェクト」ほか

地球環境基金をご支援くださった方々……………14

地球環境基金のサポーター……………16

「宝くじの夢」と「環境への貢献」という2つの期待が込められた定期預金
東京ベイ信用金庫「ジャンボ宝くじ付夢定期eco」

表紙

(特活)黒潮実感センター

▼ <http://www.orquesta.org/kuroshio/>

高知県西南端の柏島において、アオリイカの人工産卵床を設置し、イカの産卵場を確保するとともに、生物多様性の保全を図る。



環境問題も貧困も紛争もない

未来への想いを 歌い続けたい

巻頭
インタビュー

MISIAさん
歌手



【写真提供】 ©Rhythmedia inc.

昨年10月に愛知県名古屋市で開催された「生物多

様性条約第10回締約国会議（COP10）」の名誉大

使を務めたMISIAさん。圧倒的な歌唱力を持

つシンガーとして活躍する一方、貧困問題や途上国

の子どもたちの教育支援に取り組んでいるMISIAさん

から、生物多様性についてメッセージをいただきました。

貧困問題から生物多様性へ

私は、幼少期を長崎県の対馬で過ごしました。自然豊かな場所で平和教育が盛んだったこともあり、自然や平和への関心が生まれました。また、小さい時に「Do They Know It's Christmas?」や「We Are The World」

(※1)を聞いて、アフリカの貧困問題を知りました。デビュー後も、「ほっとけない世界のまじしき」キャンペーン(※2)に参加したり、「Child Africa(※3)」を立ち上げたりしながら、貧困問題などに取り組んできました。

アフリカでは、開発による水質汚染などが原因で魚が食べられなくなった。近代化されたライフスタイルが導入されたことで、その地域の自然のバ



▶ 川辺のアマガエル
(石川県羽咋市)

ランスが崩れたり…。生活向上のための開発が逆に住民の方々の生活を困難なものにしてしまっていました。開発や自然破壊が、貧困につながる現実を目の当たりにし、そこから生物多様性の意識が生まれました。

都市で生活していると、森林伐採による土砂崩れや、昆虫がいなくなることで起きる食料生産の減少などの問題を実感しにくいのが現状です。しかし、すべての問題はつながり合っています。そのつながりを皆で考え、発信したい。COP10の名誉大使をお引き受けしたのは、このような体験や想いがあったからです。

失われてきた

文化や伝統を見直す

大使として、まず各地を視察し

◀ 5月22日の国連生物多様性の日に
開催されたイベントにて

「SATOYAMA BASKET」というサイトを
設けて、現地の様子や、生物多様性
に関する情報を紹介しました。

最初に訪れたのは、4歳から11年間
過ごした対馬でした。当時から「ツシ
ヤマネコ」という絶滅危惧種がいる」
と聞いていたのですが、その生態や現
状は知らずにいました。改めて行つて
みて、多くのことに気付かされました。
例えば、ヤマネコを守るには、その種

だけではなく、エサとなるネズミの数
を増やさないといけないし、そのため
にはネズミのエサとなるドングリが採
れる広葉樹を植えなければならぬ。
また、ヤマネコが好む里山の環境を維
持するために農業使用も見直さないと
いけない。交通事故に遭うヤマネコも
多く、道路の下に獣道を造ったりして、
道路を渡らずとも道を横断できるよう
にしたりといった取組があることにも

驚きました。

石川県羽咋市^{はくいし}

の棚田では、滅
農薬米を地区全
体で作っていま
した。農薬を減
らしたことで、
いなくなってい
た虫や魚、鳥が

戻ってきていると聞き、生態系は、私
たち自身が気づき、行動すればまた守
れる、まだ間に合うこともあるのだと
思いました。

里山に代表されるように、私たち
は自然に感謝し、自然と共存してき
た文化や伝統を持っています。貧困
問題でも感じるのですが、生物多
様性の問題は、失われてきた文化や
伝統を、もう一度見直し、昔の人々
が培われてきた知恵を学ぶことも、
解決への大きな力になると改めて考
えるようになりました。

私は現在 mudel という団体の理事
をしています。mudelでは今年の5
月22日から石川県森林公園で「M I S
I Aの森」というプロジェクトを開始
する予定です。たくさんの方に、生物
多様性の大切さについて、これからも
メッセージを発信したいと思います。



保護されたツシヤマネコを観察する
(長崎県対馬市)

歌を通してメッセージを発信

すべての問題が解決して、世界中ど
こでも歌えるようになったら、世界の
交流はもっと活発になるし、もっと楽
しい世界になります。「歌」という字
は、神様に自然の恵みを感謝して器を
ささげて五穀豊穡を願い、口を開けて
祈っている姿を表しているのだそうで
す。この文字には、昔から人間は自然
に感謝しながら、自然と共生してきた
ということが表れているし、歌そのも
の、自然の中から生まれたのだと思
います。

自然への感謝の気持ち、自然と共
存してきた歴史があるからこそ、今
があり、様々な文化・伝統・文明
がつくられていることを伝えたい。
昨年9月、国連本部で開かれたMDGS
(※4) サミットでの記者会見では、



【写真提供】 ©Rhythmedia inc.

- ※ 1 「Do They 〜」(1984年)は、イギリス・アイルランドのアーティストがエチオピア飢饉救済を目的に、「We Are 〜」は85年にアメリカのアーティストがアフリカの貧困解消を目的に発表したチャリティソング。
- ※ 2 貧困をなくすためのグローバル・コール(Global Call to Action against Poverty)の日本キャンペーン(2005〜2008年)。貧困問題解決に向けたイベントや啓発活動を実施。
- ※ 3 途上国の子どもたちへの教育支援を目的に2008年に活動を開始。2010年から財団法人「mudef」の事業として継続。
- ※ 4 国連ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)。極度の貧困と飢餓の撲滅や、環境の持続可能性確保など、2015年までに達成すべき8つの目標を掲げている。
- ※ 5 MISIAの野外ライブ。2010年7月に開催した「VI」では、国連生物多様性条約事務局や生物多様性×MISIAプロジェクト(環境省)の協力で、ステージ上で生物多様性を紹介する試みも。
- ※ 6 デヴィッド・フォスターがプロデュース。COP10のオフィシャルソング。



「歌」の文字で生物多様性のメッセージを発信(MDGsサミット:ニューヨーク)

「歌」の文字を使って、生物多様性の重要性を発信させていただきました。また「星空のライブVI」(※5)では、訪れる土地ごとに伝えたいメッセージを歌詞にして、同じメロディにのせて、手紙の形で歌いました。それが「LIFE IN HARMONY」(※6)という曲で、

全ての命がつながり合い、続いていく、そしてその先に、私もあなたもいることをメッセージに込めています。

環境問題に取り組む皆さんとともに

私にとって生物多様性は、命が存在できる条件であり、私自身も含めた、命のつながりです。その命のつながりは、一枚の大きな織物のように感じます。しかし今は、その織物の様々な部分が解け、切れてしまっています。現在、生物種は20分間に1種という、恐竜が絶滅したときより10000倍も速いスピードで失われつつあるといわれています。

私たちの生活は、生物多様性なしに

は成立しません。まずは「ミレニアム開発目標MDGs」が、2015年までに達成されることを願っています。達成されれば、世界は変わるでしょう。



ライブ会場などで行われた生物多様性MY行動宣言・かざぐるまキャンペーン。「自分にできること」を書いた折り紙で、かざぐるまを作った

また、視察で訪れたどの場所にも、この環境を守っていかう、危機的状況を何とかしようとして活動されている方が多くいらつしやることに、心を動かされました。ボランティアの方々もたくさんいます。このような状況があることは、とても希望のあることです。私も、環境問題に取り組む皆さんと

一緒に、様々な問題を考え、よりよい世界づくりができればと思います。伝えたい想いを曲にして、世界中の人にに向けて歌い続けていくこと、それが私にできる一番の方法です。いつかきっと、私たちの願いや想いが、環境問題も貧困も紛争もない未来をつくっていくことでしょう。



MISIA
1978年生まれ。98年「つつみ込むように…」でデビュー。以後、「Everything」「逢いたくていま」など多数のヒット曲を発表。2005年から貧困をなくすためのグローバル・コールの日本キャンペーンに参加。2008年「Child Africa」開始。一般財団法人「mudef」理事。国際機関と協力して、途上国の子どもたちを取り巻く教育の問題を中心に支援活動を行うなど、世界的視野のもとでの社会貢献活動にも注力している。



生物多様性条約の新たな目標の実現に向けて

COP10の成果とこれからの課題

いのちの共生を、未来へ
COP10/MOP5
愛知-名古屋 2010

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知県名古屋市で開催されました。この会議で主に議論されたこと、生物多様性を守るための新たな目標、そして、今後 NGO・NPO に期待される役割などについて、環境省生物多様性地球戦略企画室の鳥居敏男室長にうかがいました。



COP10 開会式の様子。松本環境大臣が議長を務めた



愛知目標、名古屋議定書などが合意され、COP10が閉会



私たちの命を支える食べ物も生物多様性の恩恵の一つ

Question

2010年に名古屋で開催された「COP10」とは、どのような会議だったのですか。

A 今、世界各地で、熱帯雨林の減少やサンゴ礁の劣化、野生生物の減少・絶滅など、生物多様性の損失が過去にない速度で進行しています。自然の生態系はある程度のダメージには自分で回復する力をもっていますが、それを超えてしまうと自らの力では回復できなくなり、さらには別の生態系や地域にも悪影響を広げていく可能性もあります。このような臨界点を「ティッピング・ポイント（TP）」と呼びますが、人類がいかにしてこのTPを迎えないようにするかを話し合つのが生物多様性条約（※1）締約国会議です。その第10回締約国会議（COP10）（※2）が、国際生物多様性年でもあった2010年の10月に、日本を議長国として開催されたわけです。今回の会議は、2011年以降の生物多様性条約の新しい目標設定と、遺伝資源の取得と利益配分（ABS：Access and Benefit Sharing）に関するルール作りを課題とした、非常に重要な会議となりました。

Question

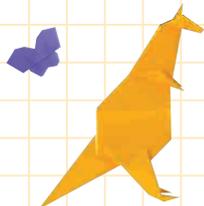
どのような新しい目標の設定がなされたのですか。

私たちの命を支える食べ物も生物多様性の恩恵の一つ

期目標として「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施すること」としています。さらに、「保護地域等を陸域17%、海域10%にする」といった具体的な数値目標など、20の個別目標が合意されました。

A これまで締約国は、2002年のCOP6で採択された「現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という「2010年目標」の実現に向けて取り組んできました。しかし、その達成度を条約事務局が評価したところ、世界でも日本でも生物多様性の損失速度は依然として減少していませんが、昨年5月に明らかになりました。COP10では、この2010年目標の評価を踏まえ、2011年以降の新たな目標として「愛知目標」が採択されました。愛知目標では、2050年までの長期目標として「自然と共生する社会の実現」を掲げ、2020年までの短期目標として「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施すること」としています。さらに、「保護地域等を陸域17%、海域10%にする」といった具体的な数値目標など、20の個別目標が合意されました。





Question

「遺伝資源」については、
どのようなルール作りがなされましたか。

A 遺伝資源というのは、動植物や微生物などの生物由来の資源で、医薬品や食料品、化粧品など様々なものに利用されています。生物多様性条約では、遺伝資源の利用から得られる利益を、遺伝資源を提供する国と利用する国で公正かつ公平に配分することを目的の一つとしていて、その国際的なルール作りが必要とされてきました。COP10での協議は難航しましたが、最終日に遺伝資源を提供する途上国側と利用する先進国側の双方の主張に配慮した議長提案が示され、なんと「名古屋議定書」として合意にこぎつけることができました。このほかにも、COP10では、生物多様性の持続可能な利用の方法として日本が提案した「SATOYAMA イニシアティブ」(※3)が合意されるなど、様々な成果がありました。

Question

NGO・NPO が COP10 で果たした役割は？
また、今後どのようなことが期待されますか。

A COP10には、オブザーバーとして、また、サイドイベント等を通して多くのNGO・NPOの参加、協力がありました。さらに、COP10の成果の一つとして挙げられる「国連生物多様性の10年」については、NGO・NPOからの提案が土台となっています。また、新たな目標の議論に資するべく昨年1月に政府がまとめた「日本提案」でも、その過程でNGO・NPOの意見が取り入れられています。そのような意味で、NGO・NPOの役割はますます大きなものとなっていると言えます。今後は、「愛知目標」という世界全体の目標を実現するために、生物多様性の中で生かされているという意識をより強く持ち、配慮や行動につなげていく現場レベルでの活動が重要になってきます。「Think Globally, Act Locally」という言葉がありますが、人と人をつ結び、人と地域をつ結び、人と自然をつ結び生物多様性の保全に向けた活動が全国各地で展開されていくためには、NGO・NPOの存在が欠かせません。愛知目標の実現に向けて、これからもNGO・NPOの活躍に期待しています。

※1
生物多様性条約
多様な生きものと生態系を守り、その恵みを将来にわたって利用するため1992年に国連で採択された国際条約。(1)生物多様性の保全 (2)生物多様性の構成要素の持続可能な利用 (3)遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分をその目的としている。

※2
生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)
2010年10月18日～29日、日本が議長国となって開催。COP10には、締約国180か国と国際機関、NGO等のオブザーバーなど13,000人以上が参加。また、遺伝子組換え生物等の国境を越える移動に関する手続き等を定めた国際的な枠組みであるカルタヘナ議定書第5回締約国会議(MOP5)が、COP10とともに開催。

※3
SATOYAMA イニシアティブ
農地や林地などにおける持続可能な自然資源の利用方法の優良事例を集め、情報共有や途上国支援を進める取組。10月19日には、その推進主体となる「SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ」が発足し、51の国や機関等が創設に参加。



鳥居 敏男さん

1961年生まれ。環境省生物多様性地球戦略企画室長。1984年環境庁(当時)入庁。富士箱根伊豆、上信越高原、瀬戸内海などの国立公園管理事務所、東北北海道地区自然保護事務所、自然環境局計画課、野生生物課等の勤務を経て、2009年7月から現職。



カタクリ
かつては日本各地の落葉広葉樹林で広く見られたカタクリ。近年では乱獲や盗掘、土地開発や雑木林の手入れ不足によって生育地が減少している



キタダケソウ
日本アルプス北岳にのみ生育する固有種の多年草。登山者による踏みつけや盗掘などによって年々個体数が減少している

【写真提供】環境省

生物多様性交流フェア での活動から――

COP10 / MOP5 に合わせて開催された「生物多様性交流フェア」では、政府や自治体、国際機関、NGO・NPO、教育機関、研究機関、企業など国内外の団体が200を超えるブース展示や100以上のフォーラムなどの関連イベントを実施しました。生物多様性交流フェアの開催場所となった白鳥地区（名古屋市熱田区：COP10 / MOP5会場の名古屋国際会議場に隣接）には期間中に約11万8千人の方々が集まり、生物多様性に関する様々な取組を知るとともに、その課題を「自分たちのこと」として考える絶好の機会となりました。ここでは、交流フェアに参加した3団体の取組を紹介します。



【写真提供】

IISD、生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会



生物多様性交流フェア

【開催期間】2010年10月11日～29日

【会場】白鳥地区（白鳥公園／熱田神宮公園／名古屋学院大学体育館）

生物多様性条約市民ネットワーク（CBD市民ネット）

URL ▶ <http://www.cbdnet.jp/>



CBD-COP10 の目標実現に向けた「生物多様性の10年へ」

生物多様性条約市民ネットワーク（CBD市民ネット）は、COP10 / MOP5に向けて生物多様性をめぐる内外の状況を前進させることを目的に、NGO・NPO、個人や企業などが参加して2009年1月に発足しました。COP10 / MOP5開催年の10年には、「国連生物多様性の10年」決議案提出を働きかけるなど政府や締約国に対して政策提言を行う一方で、1月の「生物多様性年キックオフイベント」に始まり、「100日前記念フォーラム」の開催、直前のNGO向けガイダンスの提

供などを通して生物多様性への理解の促進に取り組んできました。

10月11日～10月29日の会議開催期間中は、CBDアライアンス（※）との共催イベントやNGO戦略会議、各作業部会単位でのシンポジウムやサイドイベントを実施。交流フェアの会場では、NGOフォーラムの運営のほか、約120団体が共同出展する大規模なブース展示を行い、会議の成功に向けて多くのNGO・NPOが協力しました。

「交流フェアの各ブース内ではパネル展示や日替わりワークショップを行うなど各団体が工夫を凝らし、生物多様性や環境保全を身近に感じてもらおう来場者との交流の場となりました。生物多様性は他人事ではありません。CBD-COP10の成果実現に向けて、世界で、そして地域で起きている課題にきちんと目を向け、個人レベル、団体



2010年7月の100日前記念フォーラムにはNGO・NPOや市民、企業などから約170人が参加

レベルの活動の底上げをしていくことが求められています」（CBD市民ネット東京事務局コーディネーター・道家哲平さん）

※生物多様性条約への市民団体の参加を促進するための世界的ネットワーク。COP8（2006年、ブラジル・クリチバ）の時に設立された。



CBD市民ネットが運営したブースでのワークショップの様相

ラムサールセンター「KODOMOバイオダイバシティ」



URL ▶ <http://homepage1.nifty.com/rcj/>

“生きものを守ろう”
子どもたちから発信されるメッセージ

ラムサールセンターは、ラムサール条約と生物多様性条約への理解を深めようと2009年から「KODOMOバイオダイバシティ（生物多様性条約と生きものを守る子どもたちの運動）」を展開しています。この活動には、日本とアジアの子



2010年8月開催の「KODOMOバイオダイバシティ国際湿地交流 in 琵琶湖」には国内16湿地と海外（アジア）5湿地から78人の子どもが参加

もたち756人が参加し、湖や湿原、干潟やサンゴ礁などでの生きものの観察や、地元の人たちとのコミュニケーションを通じて「生きものと人との共生」の大切さを学んでいます。

交流フェアでの展示では、これまで2年間の活動報告として、全国のラムサール条約登録湿地で計9回、子どもたちが活動してきた成果を発表。ブースに展示されたたくさんのメッセージのほか、「湿地と生きもののお宝ポスター」や活動をPRする動画も子どもたちが作りました。

「活動を続けていく中で驚かされているのが、子どもたちの自主性で



子どもたちのメッセージや絵が所狭しと並んだブース

す。子どもたちは活動への参加をきっかけに、湿地の大切さに興味をもち、生きものを守ろうと自らが情報発信しようとしています。今後も各地でこの活動が盛り上がりつつほしいと思います」（インフォメーション担当・市川智子さん）

WWF（世界自然保護基金）ジャパン



URL ▶ <http://www.wwf.or.jp/>

短冊に願いを込めて—
人と自然が調和して生きられる未来

WWF（世界自然保護基金）が1961年に設立されたきっかけは、急激な減少を見せていたアフリカの野生生物を保護する活動を行うことでした。現在では、その活動の範囲を飛躍的に拡大させ、約100か国において様々な生態系の保全に取り組んでいます。COP10 / MOP5に向けても、生物多様性の損失速度を減少させる新



短冊でいっぱいになった笹

たな目標設定のための積極的な提言を行ってきました。

WWF ジャパンのブース出展では、「COP10にあなたの声を届けよう」と題して、WWF が理想とする「人と自然が調和して生きられる未来」への願いを来場者に“短冊”へ書いてもらうイベントを実施しました。なぜ短冊なのかというと、シンボルマークで絶滅危惧種でもあるジャイアントパンダの主食が笹であることにちなんだものです。

中には、1000以上の短冊を持ち寄った地元の中学生たちもいて、ブース内に飾られた笹は七夕のように短冊がいっぱいに。ここに集められたたくさ



短冊を手渡すセレモニーでメッセージを読み上げる加藤さん

んの願いは、COP10期間中のセレモニーで、議長国である日本政府の近藤昭一環境副大臣と、生物多様性条約事務局のジョグラフ事務局長に手渡されました。WWFの募金活動に参加し、代表して短冊を渡した中学2年生の加藤安寿美さんは、「いつまでも人とほかの生きものが生きていける地球でありますように…」と願いを伝えました。

©WWF ジャパン

特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター (JACESSES)

専門領域をもったNGOとして、 社会の穴埋めをしていきたい

1992年の地球サミットをきっかけに、政策提言を行うNGOとしてゼロからスタートした「環境・持続社会」研究センター (JACESSES)。設立から今日まで17年に及ぶ活動は、今、少しずつ実を結んできています。



市民の力で政策を創ろう！

「環境・持続社会」研究センター (JACESSES) は、1992年の地球サミットをきっかけに、93年に発足。「市民の力で政策を創ろう」と、当時、日本の環境団体の中でも数少ない「政策提言」を活動の中心に据えました。

「NGOは誰もやっていないところを補うのが仕事」と事務局長の足立治郎さんは話します。「持続可能な社会を実現するために、行政がやれ

るところは行政がやる、企業がやれるところは企業がやる。でも、誰も目を向けたり、取り組んだりしていないことがきつとあって、そんな穴埋めをするのがNGOの役割のひとつだと思っています」(足立さん)

JACESSESは、市民と専門家の参加のもと、地球温暖化の問題、また、貿易や開発等による途上国の環境・社会問題など、地球規模で発生する問題を、社会構造から変えていこうと、新たなプロジェ

クトを立ち上げながら、政策提言を行ってきました。

これまでのJACESSESの活動を振り返って

今日までに、国際会議や行政との意見交換会等の成果を積み上げてきたJACESSES。設立当初はゼロからの実績づくりの連続でした。これまで3期に分けることができると足立さんは言います。

まず、設立から98年ごろまでの第1期に取り組んだの

は、地球サミットのフォローアップ事業です。ここでは、市民を中心に、自治体、企業を対象に、持続可能な社会の実現に向けて何が課題となるかの情報収集や分析を行いました。95年からは、そのテーマを広げ、ODAを「社会的公正」と「環境的適正」の視点から検討する「持続可能な開発と援助プロジェクト」を開始。このプロジェクトの報告書が財務省(当時大蔵省)に注目され、97年には財務省とNGOとの定期協議会の発

足につながりました。

第2期には、99年から「持続可能な社会と税制・財政プロジェクト」を立ち上げ、2001年に環境への負担を軽減システムに組み込んで税として徴収する環境税についての提言書を発表。04年には環境大臣(当時)らが参加するセミナーへと発展させました。

そして08年からの第3期では、「気候変動プロジェクト」を開始し、環境税などの政策についての端緒を築いています。



JACESSES 事務局長
足立 治郎さん

ボランティアで参加した後、1995年からJACESSES事務局スタッフとなった足立治郎さん。現在は事務局長を務めながら、「持続可能な社会と税制・財政プロジェクト」に取り組み

特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター (JACESSES)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-3-2 三信ビル 401
http://www.jacses.org/

持続可能で公正な社会の実現を目指して、幅広い市民と専門家の参加協力のもと、調査研究・政策提言・情報提供を行う。



▲ JACSES で育った若者たちが持続可能な社会をつくる

「成果はいくつかあげていますが、公正で持続可能な社会をつくるという目標はまだまだ達成できていません。12年には地球サミット「リオ+20」が開催されますが、JACSES設立の原点に立ち戻り、政策提言の専門性をより高めていきたいです」(足立さん)

プロジェクトの新規立ち上げを支えた地球環境基金

ゼロから活動を始めたJACSESにとって、初年度の地球サミットフォローアップ事業から助成金を得られたことは大きかったと足立さん



は言います。「その実績をもとに、ほかのところからも支援が得られるようになりました」(足立さん)

その後、「持続可能な開発と援助プロジェクト」や「持続可能な社会と税制・財政プロジェクト」などを立ち上げる際にも、地球環境基金の助成を受けています。「私たちが新しい分野のプロジェクトに取り組んでいこうとするとき、地球環境基金がいつもその土台を支えてくれていたように思います」(足立さん)

JACSESで育った人材が社会で活躍

その活動を17年間で大きく展開してきたJACSESですが、事務局のスタッフは少数精鋭のままです。そして、その活動を支える大きな力となっているのは、学生などを中心としたインターンやボランティア、アルバイトのスタッフたち。これまで、多くの若者たちが活動に携わり、その中から研究者になった人もいます。

「JACSESで育った人材が、企業に就職したり、研究者や行政官、政治家になったりして、社会にどんどん出て行って活躍する。そこから社会が良くなっていくのいいのかなと思っています。」

ただ、NGOは、助成金がいなければ活動ができないというのでは困ります。今後は、もっとNGOが経済的に自立し、育成した人材をその活動のため有効に雇用していける仕組みをつくっていかねばと考えています」(足立さん)

JACSESがまとめた主なレポート

地球サミットフォローアップ事業 (1993年～)

- 『ポスト地球サミット市民ガイド』 (1993年)
- 『気候変動をめぐる国際状況』 (1995年)
- 『国連持続可能な開発委員会 (UNCSD) の現状と課題』 (1995年)
- 『生物多様性条約をめぐる国際状況』 (1996年)

持続可能な開発と援助プロジェクト(1995年～)

- 『ODAにおける環境配慮と持続可能な開発』 (1997年)
- 『日本のODA「環境・人権・平和」JICAの環境社会配慮ガイドラインを考える～ガイドライン (2004) をめぐる動きと課題～』 (2004年)

持続可能な社会と税制・財政プロジェクト(1999年～)

- 『環境税－税財政改革と持続可能な福祉社会』 (2004年)

気候変動プロジェクト (2003年～)

- 『カーボン・レジーム』 (2010年)
- 『「国内排出量取引制度」及び「炭素税/地球温暖化対策税/環境税」の現状・論点・提案』 (2010年)



様々な出版物で調査研究・政策提言を発信

の方々をご紹介します。(敬称略)



感謝状 ほし

オアシスブループロジェクト Act For The Planet

～会員の皆さまと一緒に、
青く美しい地球のためにできること～

株式会社東急スポーツオアシス

(本社：東京都世田谷区)

首都圏・近畿圏・広島に32店舗のフィットネスクラブを展開する株式会社東急スポーツオアシスは、2010年10月に創立25周年を迎えました。これを記念して、同社は、「私たちの暮らす青く美しい地球も健康であり続けてもらいたい」との願いから、環境保全活動を行う団体を支援する「オアシスブループロジェクト」を実施しました。

6人のメンバーを中心に立ち上げられたこのプロジェクトでは、まず1stActionとして2010年7月から8月の間、館内の照明を省エネ化したり、空調を2℃上げて扇風機を併用したりするCO₂削減に向けた様々な取組を実施しました。

お客様からの苦情も懸念されていましたが、寄せられるのは「もっとやるべきだ!」という前向きな声ばかり。酷暑にもかかわらず前年より電気使用量を削減することができ、この取組によるCO₂削減量に応じたご寄付を地球環境基金へいただきました。

続く2ndActionでは、2010年9月から10月の間、お客様が施設にチェックインするたびに、



【写真左】全店舗に設置された募金箱。お客様の善意が日々寄せられました
【写真右】武蔵小杉店ではチャリティーバザーを開催



スポーツオアシスが1円を地球環境基金に寄付する「Check -In For The Planet」を実施しました。お客様は、楽しんで利用するだけで、環境へ貢献することができました。

各店舗では、チャリティーバザーをはじめとしたオリジナルイベントやマラソン、ゴルフ、スイムフェスタなど楽しいイベントが多数企画されました。

このような取組により、期間中の来場者数は前年より約10%増え、ホームページのアクセス数も約30%増えました。

「肩に力を入れずに私たちにもできたので、CSR活動を通じ地球環境基金に協力してくれる企業が増えるといいと思います

す。環境への取組を通じて、地球環境や社会がより良くなることを願っています」(サービス推進本部プログラムサービスグループ グループマネージャー・川島さん)



ホームページでは、毎日、チェックイン数が報告されました



感謝状贈呈者の活動

地球環境基金では、一定額以上のご寄付をしていただいた方へ、感謝状を贈呈しています。

感謝状
ほし

株式会社富士通エフサス

(本社：神奈川県川崎市)



理事長の湊(写真左)より関根社長(写真右)へ感謝状を贈呈いたしました。

株式会社富士通エフサス(本社：神奈川県川崎市)は、富士通グループにおいてITインフラ・サービスを担い、企画・設計・構築・工事から、運用、メンテナンスまでを提供しています。

平成12年のISO14001認証取得以来、事業の発展と地球環境への貢献の両立を追求し、率先して環境負荷の低減に取り組んでいる同社は、社会貢献活動の一環として全社に募金箱の設置を通して地球環境基金の募金活動にご協力をいただいています。(贈呈日：平成22年12月20日)

感謝状
そら

株式会社トカイ アクアクララ中部

(岐阜県羽島市)

株式会社トカイ アクアクララ中部(岐阜県羽島市)は、企業として、また個人レベルで環境保全の輪を広げていくため、専用ウォーターサーバーのボトル販売の収益の一部を地球環境基金へご寄付いただいています。(贈呈日：平成22年11月25日)



感謝状
みどり

東温市役所

(愛媛県東温市)

愛媛県の東温市役所は、親子自然観察会等を行う「とことこクラブ」や、子どもたちが家庭内で省エネを実践する「キッズISO」といった環境教育に力を入れています。地球温暖化対策と環境教育を兼ねた「緑のカーテンプロジェクト」においては、収穫したゴーヤを市民に配布し募金活動にご協力いただきました。また、市役所内でも募金箱の設置を通してご協力いただいています。

(贈呈日：平成22年3月23日)



【写真左】収穫されたゴーヤとともに地球環境基金の募金箱が設置されました

【写真下】ゴーヤの収穫には環境教育を兼ねて子どもたちも参加



● 感謝状贈呈条件

感謝状	ほし 	そら 	みどり 
 個人	20万円以上、または累計50万円以上のご寄付	累計20万円以上のご寄付	累計5万円以上のご寄付
 団体	50万円以上、または累計100万円以上のご寄付	累計50万円以上のご寄付	累計10万円以上のご寄付

※感謝状「そら」「みどり」につきましては、2009年10月以降、入金が確認された方から随時発行しております。



環境月間の取組として始めた職員による募金ははや3年目となり、表彰をいただくまでになりました。微力ですが、環境保全活動の支えになれば幸いです。
(自治体：大牟田市役所様)

- 磐田市役所 産業環境部 環境保全課
- 雲仙市役所 千々石総合支所 市民生活課
- 雲南市役所 木次総合センター
- 雲南市役所 大東総合センター
- 恵那市役所 環境課
- 大津市役所 環境部 環境政策課
- 大治町役場 建設部 産業環境課
- 大牟田市役所
- 長万部町役場 町民課 住民生活グループ
- 葛城市役所 新庄庁舎 市民生活部 環境課
- かつらぎ町役場 花園支所 住民課
- 鎌倉市役所 環境政策課
- 上富田町役場 住民生活課
- 川崎町役場 町民生活課
- 環境省 募金箱
- 河内長野市役所 環境保全課
- 木曾町役場 開田支所
- 北秋田市役所 森吉庁舎 森吉総合窓口センター
- 紀美野町役場 美里支所
- 古河市役所 環境政策課
- 小平市ごみ減量推進実行委員会
- 小平市役所 環境部 環境保全課
- 佐世保市役所 吉井行政センター 住民課
- 山武市役所 環境保全課
- 上越市役所 自治・市民環境部 環境保全課
- 白鷹町役場 町民課
- 新上五島町役場
- 瀬戸内市役所 長船支所
- 大仙市役所 神岡総合支所 市民課
- 大仙市役所 西仙北総合支所 市民課

- 高松市役所 庵治支所
- 高山市役所 水道環境部 生活環境課
- 宝塚市役所 環境政策課
- 千歳市役所 市民環境部 環境課
- 千葉市役所 環境調整課 募金箱
- 千葉県庁 環境生活部 環境政策課
- 中国四国地方環境事務所
- つがる市役所 民生部 環境衛生課
- 津市役所 河芸総合支所 地域振興課
- 東海村役場 環境政策課
- 十日町市役所 松代支所 市民課
- 東北地方環境事務所
- 土佐清水市 環境課
- 鳥羽市役所 環境課
- 直島町役場 企画環境課
- 中津川市役所 蛭川総合事務所
- 中津市役所 市民環境部 生活環境課
- 南陽市役所 市民課
- 萩市役所 旭総合事務所
- 日置市役所 市民福祉部 市民生活課
- 日高町役場
- 平戸市役所 大島支所
- 福山市役所 環境保全課
- 富士市役所
- 碧南市 農業活性化センター あおいパーク
- 北杜市役所 明野総合支所 地域振興課
- 牧之原市役所
- 松江市役所 美保関支所 市民生活課
- 松阪市役所 飯南地域振興局 地域住民課
- 松阪市役所 環境課
- 真庭市役所 市民生活部 環境課
- まんのう町役場 琴南支所
- 三重県庁 環境森林部 環境森林総務室
- 三種町役場 山本総合支所 地域生活課
- 南島原市役所
- 宮城県庁 環境生活部 環境政策課

- 森町役場 住民生活課 生活保全係
- 焼津市役所
- 八重瀬町役場 住民環境課
- 八代市役所 市民環境部 環境課
- 行橋市役所 市民部 環境課

その他

- いばらき環境フェア 2010
- 梅花女子大学 茶道部
- 岩見沢消費者協会
- NPO 地域づくり工房
- 香川県地球温暖化防止活動推進センター
- 上川町立上川中学校
- 一般社団法人 環境パートナーシップ会議
- (特活) 国際連合活動支援クラシックライブ協会
- (社) 全国燃料協会
- 専修学校環境学園専門学校
- 館林市立第二中学校
- (特活) Dance Association Seeds / GRANDSOUL
- 土岐川を美しくする会 土岐支部
- 豊川商工会議所
- 日本大学高等学校
- フリーマーケット楽市楽座 玉越東郷店
- フリーマーケット楽市楽座 玉越中川店
- フリーマーケット楽市楽座
- スーパーグランドビュー小田原店
- フリーマーケット楽市楽座
- 玉越春日井インター店
- (特活) 山の自然学クラブ
- リサイクル自動車ポッポ

これからも「ダンスが地域のためにできること」をスローガンに、自分たちも地域も、そして地球もハッピーになれる取組に挑戦していきます！
(その他：Dance Association Seeds/ GRANDSOUL様)

【お断り】*このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人及び企業・団体等の区別につきまして必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合により、ご寄付・ご支援くださったすべてのの方々のお名前を掲載できない場合がございますので、ご了承ください。
*法人の種別は略称にて掲載させていただいております。

平成22年12月末日現在の造成額：140億82万1,704円

平成22年7月から12月末日現在までの寄付金総額：3,360万8,015円(501件)



地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成 22 年 7 月から 12 月末までにご寄付・ご支援くださった方々は次のとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、様々なイベントや地球環境基金主催の各講座などを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

個人

伊藤 一秀	嶋元 誠
牛丸 清美	谷口 滋
後 友之	中村 亨
大槻 博	中村 典男
奥井 美由紀	西久保 裕彦
勝又 兼良	沼野 伸生
勝又 すみ子	野田 好和
日野 和重・麻祐子	波田野 統之
加藤 裕章	服部 万里江
木村 チヨ子	平野 康行
小西 みゆき	堀口 和久
小林 正平	本田 聡
近藤 優美	眞榮城 智子
坂本 昇一	湊 亮策

仕事柄 生きものたちと触れ合う機会が多く、つらい現状を知ることも多いですが、同じ地球の仲間としてこれからも力になりたいです。

(個人：奥井 美由紀様)

企業

アイ・ツールズ アンド イーエクスプレイン(株)
(株) あいづダストセンター
(株) 朝日フィナンシャルグループ
(株) アメテック東日本設備
イーパートナーズ(株)
岩見沢平安閣
(有) インターリンク
(株) 植木組 東京支店
(株) 内田洋行 九州支店
(株) エコバレースキー場
NTT コミュニケーションズ(株)
経営企画部 プロキュアメント統括室

エルゴテック(株)
(株) 大室明治也
(株) 沖縄ファミリーマート
鹿児島ワシントンホテルプラザ
(株) カワサキ電通
京都信用金庫 田辺支店
キヨタ(株)
(有) 倉田商店
(株) クレディセゾン
ごきげんバザール 越谷店
(株) サカプロ
(株) サンビクトリー
(株) ジェイアール西日本
デイリーサービスネット
ジェイチャイナ
(株) ジャパンクリエイト
SUI INTERNATIONAL(株)
セイワエステート(株)
(株) セルバ
(株) そごう・西武
(株) ツマツビシ
(株) 東急スポーツオアシス
(株) トーカイ
名古屋テレビ放送(株) イベント事業部
日本地下石油備蓄(株) 久慈事業所

日本リライアンス(株)
能勢電鉄(株)
ノボ ノルディスクファーマ(株) 郡山工場
(株) ファミリーマート
(有) ふじ井
(株) 富士通エフサス
古本市場 奈良学園前店
(株) 北海道ファミリーマート
三井住友カード(株) 東京法人営業部
三菱 UFJ ニコス(株) CRM 推進部
コミュニケーション推進グループ
(株) 南九州ファミリーマート

国・地方公共団体

青森市役所 浪岡事務所 市民課
青森市役所 企業局上下水道部
八重田浄化センター
阿賀町役場 上川支所
朝倉市役所 杷木支所 市民福祉係
荒尾市役所 環境保全課
淡路市役所 一宮事務所 市民窓口課
諫早市役所 小長井支所
石巻市役所 生活環境部 環境課
出雲市役所 3R 会
岩倉市役所 環境保全課

「地球環境基金便り 30号」読者アンケートにご協力ください

アンケートは、このページのアンケートはがき、及びホームページ「地球環境基金の情報館」のアンケートページ (<http://www.erca.go.jp/jfge/info/publicity/tayori/form.html>) において受け付けております。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

Present

アンケートにお答えいただいた方の中から、地球環境基金オリジナル・エコランチトートバッグなどをプレゼント。(応募締切 2011 年 8 月末)
当選者の発表は、地球環境基金のホームページ上で行う予定です。



エコランチトートバッグ



寄付事例

「宝くじの夢」と「環境への貢献」という
2つの期待が込められた定期預金

東京ベイ信用金庫 「ジャンボ宝くじ付夢定期 eco」

東京ベイ信用金庫（千葉県市川市）が販売する「ジャンボ宝くじ付夢定期 eco」は、購入者にジャンボ宝くじがプレゼントされる定期預金となっており、その宝くじが末等（300円）に当せんした場合、地球環境基金へ寄付することを選択できます。

平成21年度（「夢定期7eco」、「夢定期8eco」）は、123名の方からご寄付をいただきました。



キャンペーンポスター

ご支援いただいた方々 (五十音順・敬称略)

アケツ セツコ
アサオ ミユキ
アサノ ヒデオ
アベ スミイ
アライ ヨリコ
イイジマ ヒロユキ
イイツカ ミツジ
イシイ タカヨ
イシイ ヤスオ
イシカワ ヒロシ
イシザカ シュンイチ
イシヤマ シュウコ
イシヤマ ヒロコ
イトウ セツコ
イナバ トシハル
イノウエ ヨシジロウ
ウキヤ ノリコ
ウダガワ タケアキ
ウダガワ マサアキ
エグチ トモコ
エンドウ イクコ
オйкаワ ミキオ
オオクボ タケイチ

オオタニ ススム
オオツカ ヒサコ
オオツカ ヒデオ
オオツカ マスヒロ
オオツカ マスミ
カナヤ タダシ
カメヤマ サタコ
カモシタ シゲヨシ
カワグチ ヒロコ
カワシマ サチコ
キタムラ コウキ
キトウ タツオ
コガ テルカズ
コクブ カズミ
コジマ トモコ
コジマ マサツグ
コジマ リツコ
コバヤシ ヤエコ
コミヤ トシコ
コヤマ シズコ
コヤマ タダシ
コンドウ ヨシアキ
サイトウ アキコ
サカバ ミチコ
サカモト アツシ

サカモト カツヒロ
ササキ トシロウ
サトウ トミコ
シノザキ ノリコ
シマムラ カヨコ
シンカワ マサトシ
スゴウ ケイイチ
スズキ ヒデオ
スズキ マルミ
スミヨシ フミトシ
セキネ シノブ
ソメヤ ヨウコ
ダイドウジ シズコ
タカイズミ カツマサ
タカシマ ヨシジ
タカシマ ヨシミ
タカハシ キヨコ
タカハシ ヒデキ
タカハシ マサノスケ
タカハシ ミネタロウ
タカハシ ミユキ
タナカ カズエ
タニ ヒサコ
タノウエ フミコ
チバ ヤエコ

チバ ユウジ
ツチダ モトユキ
テラサワ スミオ
トウゴウ ハルヨ
ナガオ ヨシコ
ナガクラ ヨシノリ
ナカザワ ミサコ
ナゴヤ スズコ
ニイツマ デンイチ
ネモト スミ
ネモト マサミチ
ネモト ミスズ
ハセガワ サダコ
ハヤシ ジュンコ
ハラヤマ チエコ
ハルハラ ヤスヒコ
ヒグラシ ヤチヨ
ヒダ フミオ
ヒラカワ ヒロシ
ヒラバヤシ ミエコ
フジタ ヒロユキ
フシモト タツミ
ホンジヨウ キンイチ
マスダ トシコ
マツザワ セツコ

マツハシ アツコ
マツハシ ジュンコ
マツマル コウセイ
マツモト アツコ
ミウラ カズコ
ミカハラ チエコ
ヤザワ ヤスエ
ヤナギ ノリオ
ヤノ カズコ
ヤマガタ ジュンジ
ヤマガタ トモコ
ヤマグチ ヒロコ
ヤマベ サチコ
ヤマモト シゲコ
ヤマモト マリコ
ユアサ セイイチ
ヨウメイ アキコ
ヨウメイ ケンジ
ヨシダ キョウコ
ヨシハラ ヒデノリ
ヨネダ エミ
ワカバヤシ カズエ
ワタナベ コウキチ
ワタナベ フミオ
ワタナベ ミツコ

「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。お振込みの手数料は無料です。

銀行名	口座名称	口座番号
ゆうちょ銀行	地球環境基金	00190-0-664214

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。

- ① 独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されています。
- ② ゆうちょ銀行以外の銀行からお振込みいただく場合には、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部企画振興課（TEL：044-520-9606）へご連絡ください。

銀行名	支店名	口座番号
新生銀行	本店	0789699
三井住友銀行	東京公務部	3013615
三菱東京UFJ銀行	本店	7637448
みずほコーポレート銀行	本店	2413416
りそな銀行	赤坂支店	1023850

口座名称：独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金
預金種目：普通預金

※このほかにも、クレジットカードを利用した寄付や、楽天銀行を利用した寄付が可能です。詳しくは地球環境基金のホームページをご覧ください。
地球環境基金の情報館 ▶ <http://www.erca.go.jp/jfge/>

